

## 令和6年度全国学力・学習状況調査結果の概要について

令和6年9月備前市教育庁小中一貫教育課

目的：◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。

◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

◇そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

実施日：令和6年4月18日（木）

実施校：市内小学校10校 第6学年児童183人

市内中学校 5校 第3学年生徒161人

調査：◇教科に関する調査（国語、算数・数学）

◇学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査

### 1 学力調査結果の分析

#### <小学校>

##### 【国語】

全体的には全国・県の平均正答率をやや下回っている。

昨年度課題だった情報と情報の関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解して使うことができるかをみる問題では、正答率が全国・県をやや上回っていた。

また、人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができるかをみる問題でも平均正答率が全国・県をやや上回った。児童質問の「国語の授業では、物語を読むときに、登場人物の性格や特徴、物語全体を具体的にイメージし、どのような表現で描かれているのかに着目している」の項目では、肯定的に回答している児童の割合が全国・県よりも高く、日常の授業の成果だと考えられる。

資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる問題では、平均正答率が全国・県平均を下回っており課題が見られた。

また、漢字の使用など基礎的な内容についての平均正答率が全国・県平均を下回り、無回答率も全国・県と比較して高い傾向が見られた。学年別漢字配当表に示されている漢字を正確に習得し、文の中で適切に使うことができるよう、一層の工夫が必要である。

### 【算数】

全体的には全国・県の平均正答率をやや下回っているものの、ほぼ同等の正答率である。

簡単な二次元の表を読み取り、必要なデータを取り出して分類整理することができるかどうかをみる問題の平均正答率が全国・県平均よりもやや上回る正答率であった。このことから、目的に応じてデータを収集し、データを整理する観点に着目して表を用いて分類整理する力が概ね良好であるといえる。

折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件に当てはまることを言葉と数を用いて記述することができるかどうかをみる問題については全国・県を下回る傾向が見られ、また、無回答率も高かった。問題には、条件が2つ示されており、一方の条件のみ書いている児童も多かった。このような状況から、グラフから適切に必要な数値を読み取るとともに、何を問われているのか、問題の条件を的確に読み取ることができるよう指導の工夫が一層必要である。

### <中学校>

#### 【国語】

全体的には全国・県の平均正答率をやや下回っているものの、ほぼ同等の正答率である。

意見と根拠など情報と情報の関係について理解しているかどうかを見る問題や、話合いの話題や展開を捉えながら、他者の発言と結び付けて自分の考えをまとめることができるかどうかをみる問題などで平均正答率が全国・県を上回るなど、一定の授業改善の効果が見られた。

また、無回答率は、記述式の問題において高い傾向が見られた。

文章の全体と部分との関係に注意しながら、主張と例示との関係を捉えることができるかどうかをみる問題や文の成分の順序や照応について理解しているかどうかを見る問題に課題が見られた。

このようなことから、現在進行している授業改善の取り組みを継続するとともに、教科の本質的な学びをより自覚できるように、短いサイクルで確認できるような仕組みづくりが必要である。

#### 【数学】

全体的には全国・県の平均正答率をやや下回っている。

一次関数について、式とグラフの特徴を関連付けて理解しているかどうかをみる問題や、目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができるかどうかをみる問題の平均正答率は全国・県と比較してやや高かった。

複数の集団のデータの分布から、四分位範囲を比較することができるかどうかを見る問題や統合的・発展的に考え、成り立つ事柄を見だし、数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる問題については平均正答率が全国・県を下回った。

このようなことから、日常の授業と家庭学習を一層連動させるよう工夫したり、教科の本質を生かしながら複合型の課題解決に取り組む場を定期的に設けたりするなどの工夫が必要である。

## 2 学校及び市教育委員会の取組

### 【学校】

- 授業改善及び計画訪問の実施による校内研修体制のより一層の充実
  - ・市内中堅教諭の資質向上及び連携強化
  - ・中堅教諭の指導力を発揮した校内研修体制の構築
  - ・中堅教諭と指導主事が協力した若手教員の授業力向上を中心とした学校の組織力向上
  - ・学力向上の取組と校内研究・研修を連動させた学習内容の定着のためのPDCAサイクルの構築及び推進
- 1人1台端末を有効活用した授業実践の充実
  - ① 教科の本質へ向かう授業実践に対する市内教員の共通理解
  - ② ①を受けた指導主事による各校に対する継続的な支援・助言
- 中学校区単位での学力向上に向けた小中一貫した課題解決の推進
  - ・中学校区単位での学力的課題に対する共通理解と組織的対応
- 指導主事による若手教員を対象に授業改善のための指導・助言
- 補充学習・朝、昼、放課後等を有効に活用した補充学習の推進
- 家庭と連携し、授業と連動した家庭学習の内容充実と習慣化を推進

### 【教育委員会】

- 体制整備・ICT(電子黒板・デジタル教科書等)環境の整備
  - ・GIGA端末活用環境の整備
  - ・きめ細やかな指導を可能にする市費非常勤講師や教育支援員の配置
  - ・指導訪問等による学校の課題解決に向けた指導助言
- 地域の教育力を生かし、公民館等で土曜日や長期休業中に補充学習を行う「備前まなび塾+」の実施
  - ・地域の教育力を生かし、授業支援や補充学習、環境整備、通学の見守り支援等を行う地域学校共同本部の活用
- 授業改革推進員・指導教諭と連携した授業改善の取組の推進
- 管理職の学校経営ビジョンの推進に係る支援

### 3 学力調査（教科に関する調査）

#### （1）平均正答率

小学校	国語	算数
備前市	63	61
岡山県	68	62
全国	67.7	63.4
県比較	▲ 5	▲ 1
国比較	▲ 4.7	▲ 2.4

中学校	国語	数学
備前市	57	49
岡山県	59	53
全国	58.1	52.5
県比較	▲ 2	▲ 4
国比較	▲ 1.1	▲ 3.5

<教科ごとの総問題数と正答率の関係>

#### 【小学校】

国語…全 14 問（正答数 1 問の差＝正答率約 7.1 ポイントの差）

算数…全 16 問（正答数 1 問の差＝正答率約 6.3 ポイントの差）

#### 【中学校】

国語…全 15 問（正答数 1 問の差＝正答率約 6.7 ポイントの差）

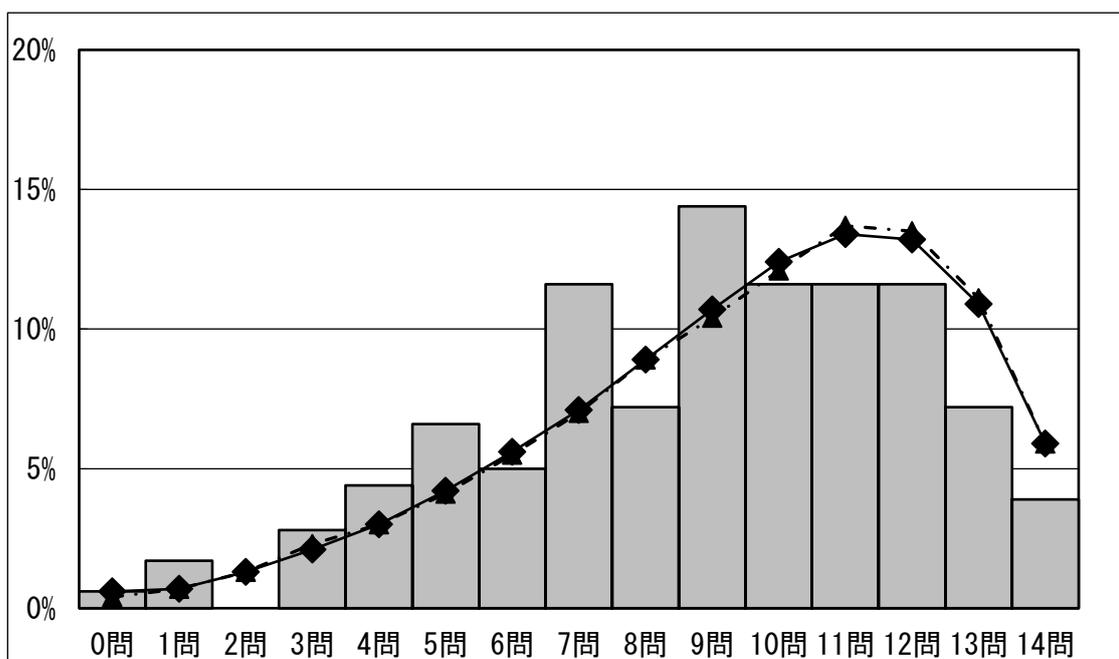
算数…全 16 問（正答数 1 問の差＝正答率約 6.3 ポイントの差）

(2) 正答数分布 [小中教科別] 縦軸：割合 (%) 横軸：正答数 (問)

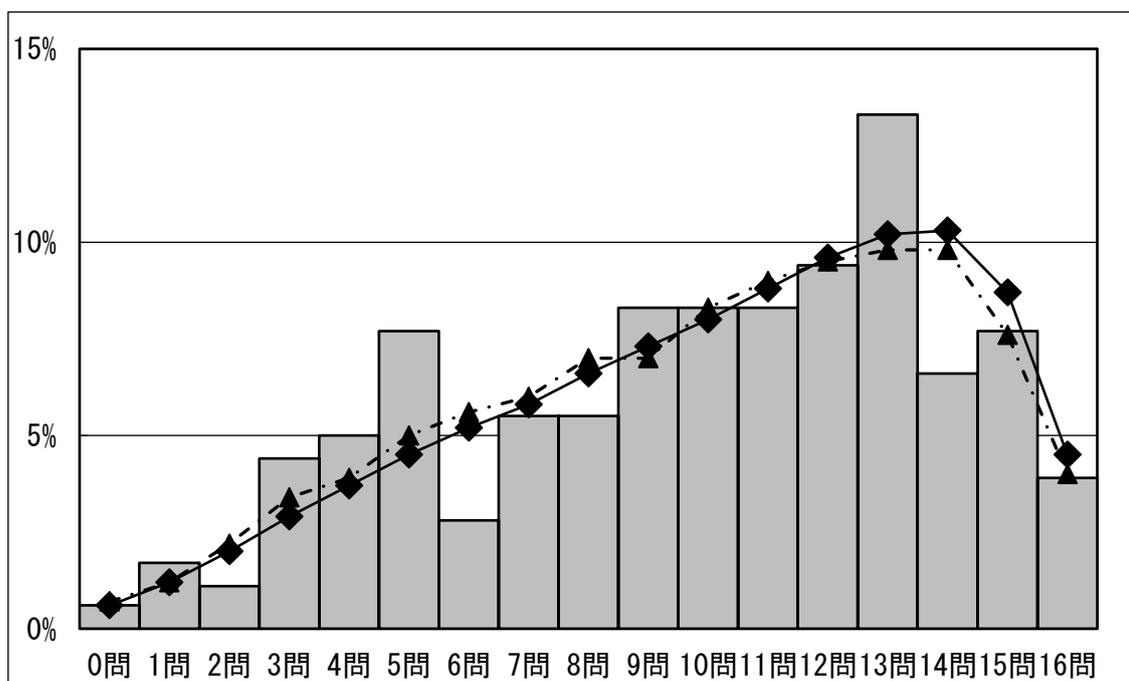
市 県 全国

【小学校】

国語

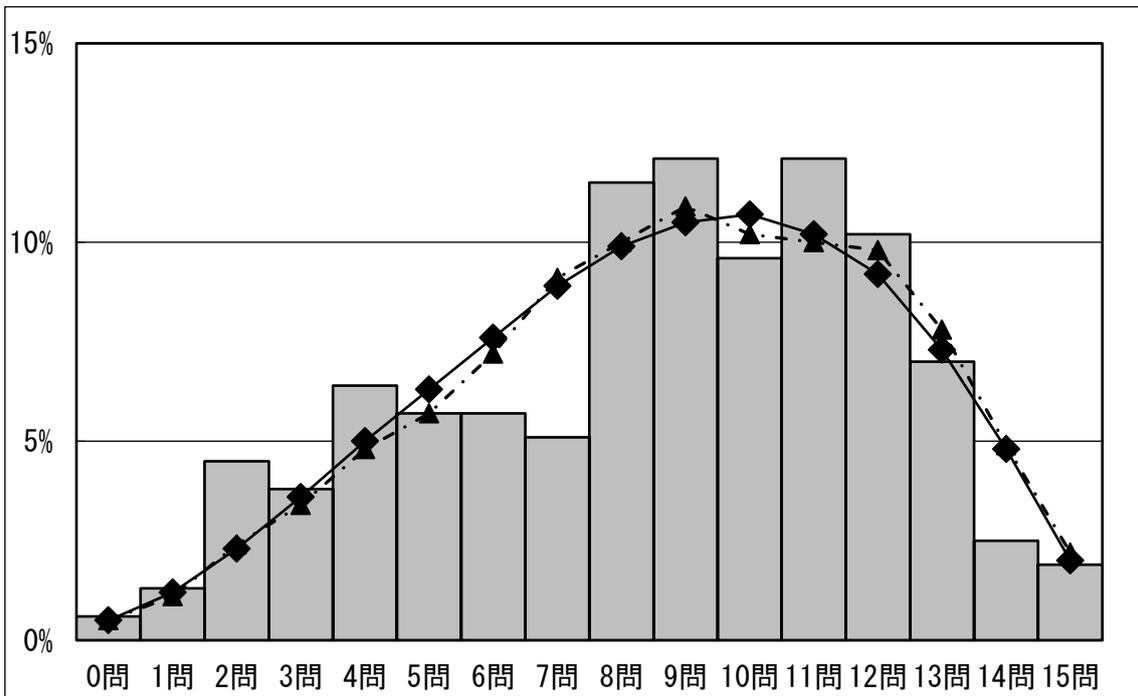


算数

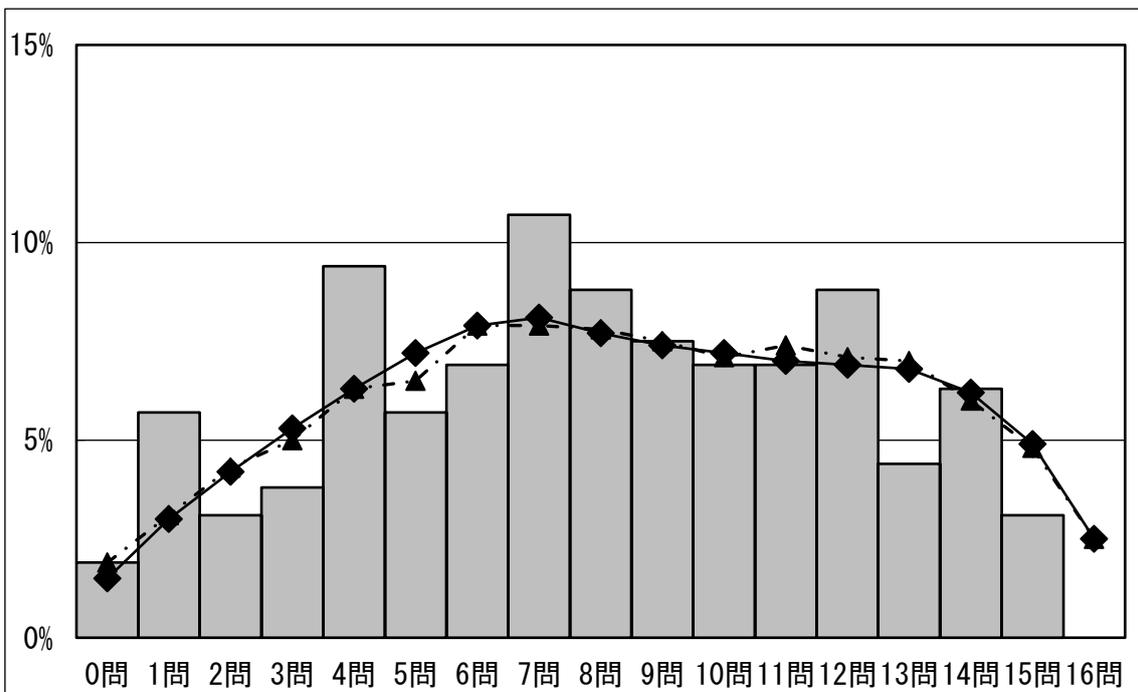


【中学校】

国語



数学



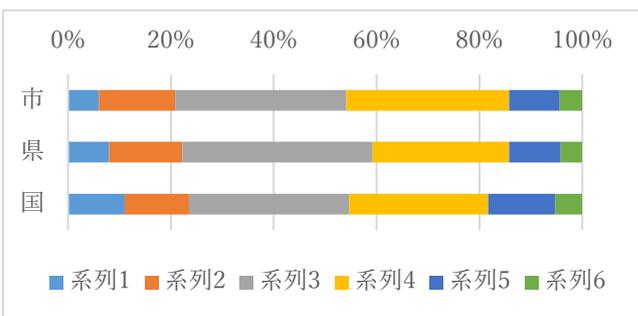
#### 4 質問調査（主な項目のみ）

A 学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。（学習塾や家庭教師、インターネットを活用した学びを含む。）

1.3時間以上 2.2時間以上3時間より少ない 3.1時間以上、2時間より少ない 4.30分以上1時間より少ない 5.30分より少ない、

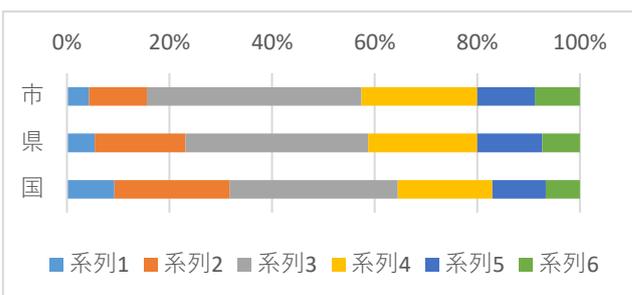
6.全くしない

【小学生】



系列	1	2	3	4	5	6
市	6.0	14.8	33.3	31.7	9.8	4.4
県	8.0	14.2	37.0	26.5	10.0	4.2
国	11.0	12.5	31.1	27.0	13.0	5.3
県比較	▲ 2.0	0.6	▲ 3.7	5.2	▲ 0.2	0.2
国比較	▲ 5.0	2.3	2.2	4.7	▲ 3.2	▲ 0.9

【中学生】



系列	1	2	3	4	5	6
市	4.3	11.2	41.6	22.4	11.2	8.7
県	5.4	17.6	35.5	21.2	12.6	7.3
国	9.2	22.5	32.6	18.4	10.4	6.6
県比較	▲ 1.1	▲ 6.4	6.1	1.2	▲ 1.4	1.4
国比較	▲ 4.9	▲ 11.3	9.0	4.0	0.8	2.1

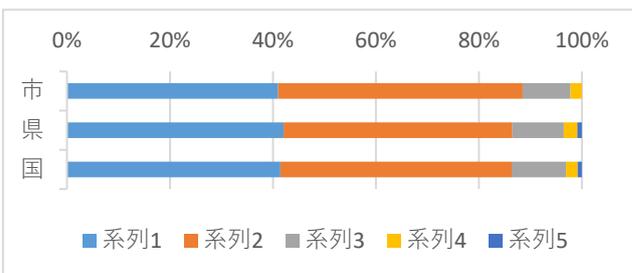
A 1時間以上家庭で勉強する割合（1+2+3）は、小学生では全国とほぼ同等、中学生では7.2ポイント下回っている。

B 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気づいたりすることができていますか。（無回答除く）

1 当てはまる 2 どちらかといえば、当てはまる 3 どちらかといえば、当てはまらない 4 当てはまらない

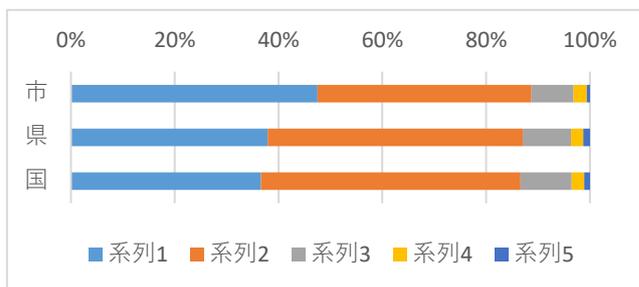
5. 学級の生徒との間で話し合う活動を行っていない。

【小学生】



系列	1	2	3	4	5
市	41.0	47.5	9.3	2.2	0
県	42.1	44.5	10.0	2.6	0.9
国	41.4	44.9	10.5	2.3	0.8
県比較	▲ 1.1	3.0	▲ 0.7	▲ 0.4	▲ 0.9
国比較	▲ 0.4	2.6	▲ 1.2	▲ 0.1	▲ 0.8

【中学生】



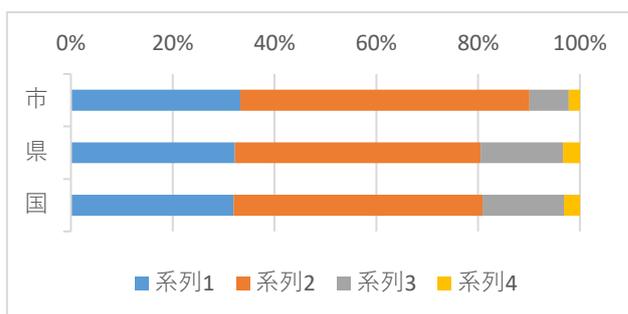
系列	1	2	3	4	5
市	47.2	41.0	8.1	2.5	0.6
県	37.7	48.9	9.3	2.3	1.3
国	36.4	49.7	9.8	2.4	1.1
県比較	9.5	▲ 7.9	▲ 1.2	0.2	▲ 0.7
国比較	10.8	▲ 8.7	▲ 1.7	0.1	▲ 0.5

B 肯定群（「できている」「どちらかといえばできている」の計）の割合は、小学生で2.2ポイント、中学で2.1ポイント全国を上回っている。

C 学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。

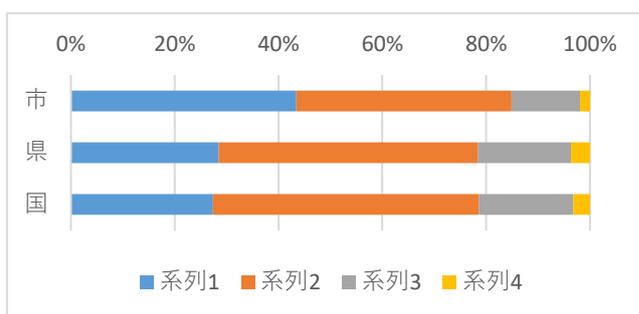
1 できている 2 どちらかといえばできている 3 あまりできていない 4 全くできていない

【小学生】



系列	1	2	3	4
市	33.3	56.8	7.7	2.2
県	32.2	48.2	16.2	3.3
国	31.9	48.9	16.0	3.1
県比較	1.1	8.6	▲ 8.5	▲ 1.1
国比較	1.4	7.9	▲ 8.3	▲ 0.9

【中学生】



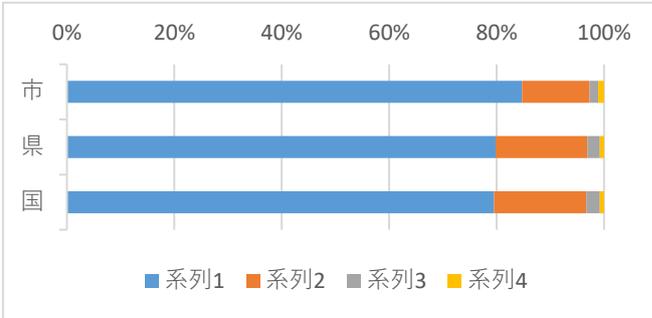
系列	1	2	3	4
市	42.9	41.0	13.0	1.9
県	28.2	49.4	17.8	3.6
国	27.1	50.8	18.0	3.2
県比較	14.7	▲ 8.4	▲ 4.8	▲ 1.7
国比較	15.8	▲ 9.8	▲ 5.0	▲ 1.3

C 肯定群（「できている」「どちらかといえば、できている」の計）の割合は、小学生で9.3ポイント、中学生で6.0ポイント全国を上回っている。

D いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。

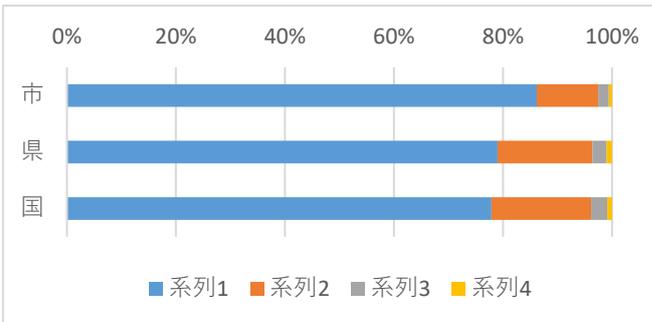
1 そう思う 2 どちらかといえば、そう思う 3 あまりそう思わない 4 全くそう思わない

【小学生】



系列	1	2	3	4
市	84.7	12.6	1.6	1.1
県	79.8	17.1	2.3	0.8
国	79.5	17.2	2.5	0.8
県比較	4.9	▲ 4.5	▲ 0.7	0.3
国比較	5.2	▲ 4.6	▲ 0.9	0.3

【中学生】



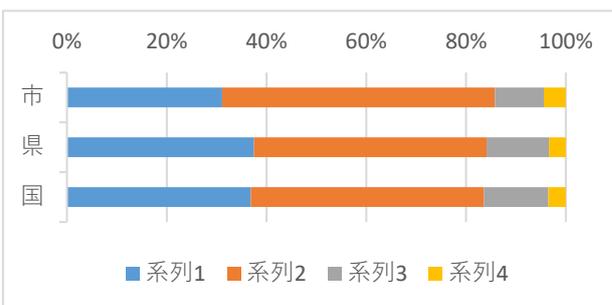
系列	1	2	3	4
市	85.7	11.2	1.9	0.6
県	78.5	17.3	2.6	1.0
国	77.5	18.2	2.9	0.9
県比較	7.2	▲ 6.1	▲ 0.7	▲ 0.4
国比較	8.2	▲ 7.0	▲ 1.0	▲ 0.3

D 肯定群（「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」の計）の割合で備前市と全国を比較すると、小学生・中学生ともにほぼ同等である。ただ、「そう思う」の割合に着目すると、小学校で5.2ポイント、中学生で8.2ポイントと全国を大きく上回っている。

E 地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか。

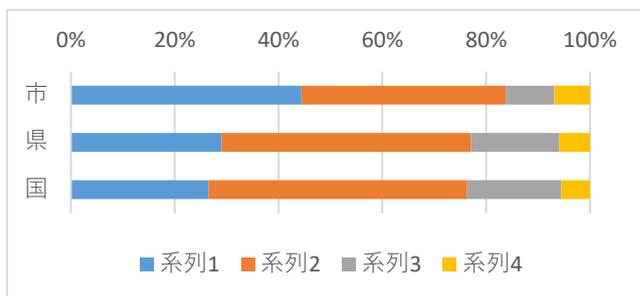
1 ある 2 どちらかといえば、ある 3 あまりない 4 全くない

【小学生】



区分	1	2	3	4
市	31.1	54.6	9.8	4.4
県	37.5	46.6	12.5	3.4
国	36.8	46.7	12.9	3.5
県比較	▲ 6.4	8.0	▲ 2.7	1.0
国比較	▲ 5.7	7.9	▲ 3.1	0.9

### 【中学生】



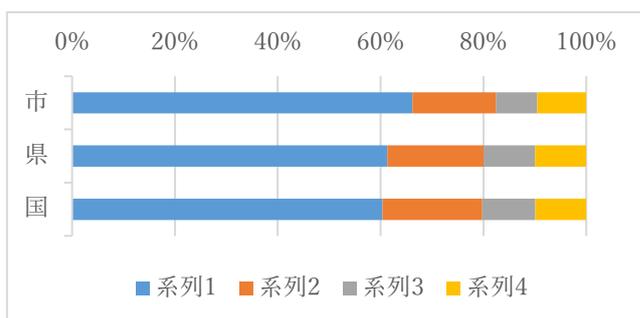
区分	1	2	3	4
市	44.1	39.1	9.3	6.8
県	28.9	47.9	16.9	5.9
国	26.4	49.7	18.1	5.5
県比較	15.2	▲ 8.8	▲ 7.6	0.9
国比較	17.7	▲ 10.6	▲ 8.8	1.3

E 肯定群（「ある」「どちらかといえば、ある」の計）の割合で備前市と全国を比較すると、小学校では2.2ポイント、中学校では7.1ポイントと上回っている。

### F 将来の夢や目標を持っていますか。

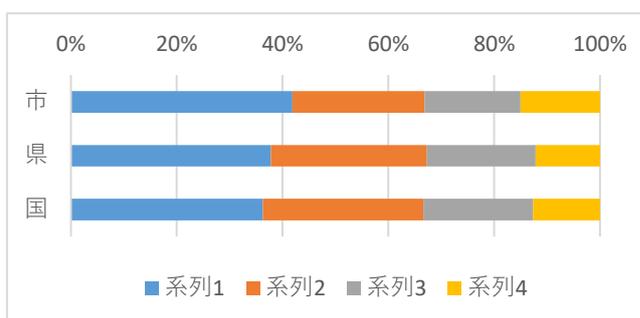
1 そう思う 2 どちらかといえば、そう思う 3 あまりそう思わない 4 全そう思わない

### 【小学生】



区分	1	2	3	4
市	57.4	21.3	12.6	8.7
県	60.4	21.3	10.2	8.1
国	60.6	21.8	9.8	7.7
県比較	▲ 3.0	0.0	2.4	0.6
国比較	▲ 3.2	▲ 0.5	2.8	1.0

### 【中学生】



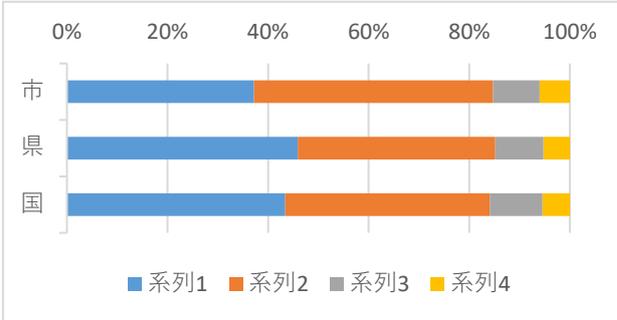
区分	1	2	3	4
市	41.6	24.8	18.0	14.9
県	37.5	29.3	20.4	12.1
国	36.1	30.2	20.6	12.6
県比較	4.1	▲ 4.5	▲ 2.4	2.8
国比較	5.5	▲ 5.4	▲ 2.6	2.3

F 肯定群（「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」の計）の割合で備前市と全国を比較すると、小学生では3.7ポイント下回り、中学生ではほぼ同等である。ただ、中学生の「そう思う」の割合では、全国を5.5ポイント上回っている。

G 自分には、よいところがあると思いますか。

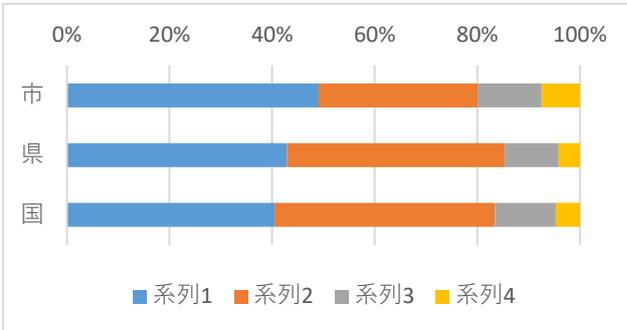
1 そう思う 2 どちらかといえば、そう思う 3 あまりそう思わない 4 全そう思わない

【小学生】



区分	1	2	3	4
市	37.2	47.5	9.3	6.0
県	45.9	39.3	9.6	5.2
国	43.4	40.7	10.5	5.4
県比較	▲ 8.7	8.2	▲ 0.3	0.8
国比較	▲ 6.2	6.8	▲ 1.2	0.6

【中学生】



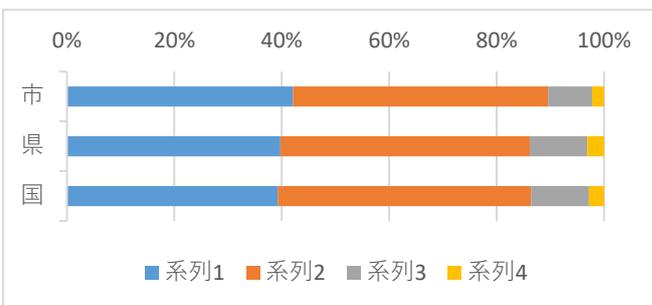
区分	1	2	3	4
市	49.1	31.1	12.4	7.5
県	42.8	42.3	10.5	4.1
国	40.4	42.9	11.8	4.7
県比較	6.3	▲ 11.2	1.9	3.4
国比較	8.7	▲ 11.8	0.6	2.8

G 肯定群（「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」の計）の割合で備前市と全国を比較すると、小学生では同等、中学生では3.1ポイント下回っている。ただ、中学生の「そう思う」の割合では、全国を8.1ポイント上回っている。

H 国語の授業の内容はよくわかりますか。

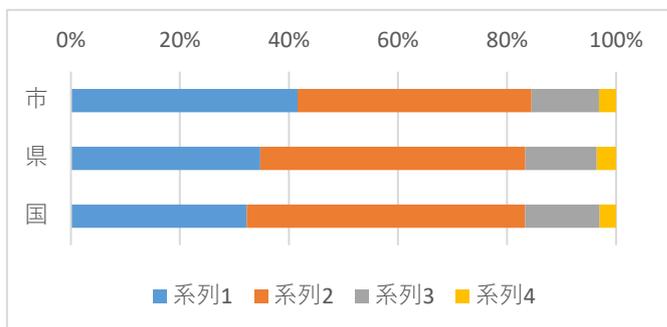
1 当てはまる 2 どちらかといえば、当てはまる 3 どちらかといえば、当てはまらない 4 当てはまらない

【小学生】



区分	1	2	3	4
市	42.1	47.5	8.2	2.2
県	39.7	46.4	10.7	3.1
国	39.2	47.1	10.8	2.8
県比較	2.4	1.1	▲ 2.5	▲ 0.9
国比較	2.9	0.4	▲ 2.6	▲ 0.6

【中学生】



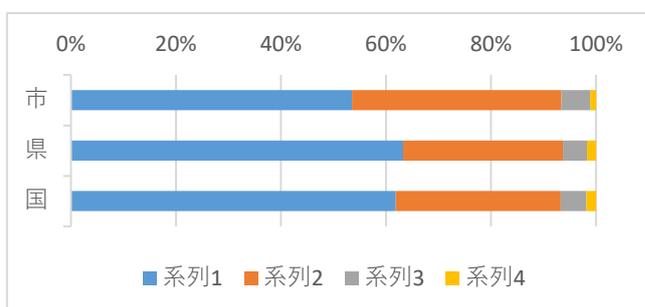
区分	1	2	3	4
市	41.6	42.9	12.4	3.1
県	34.6	48.4	13.1	3.5
国	32.0	50.7	13.6	3.0
県比較	7.0	▲ 5.5	▲ 0.7	▲ 0.4
国比較	9.6	▲ 7.8	▲ 1.2	0.1

H 肯定群（「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の計）の割合で備前市と全国を比較すると、小学生では3.3ポイント、・中学生では1.8ポイントと上回っている。

I 国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。

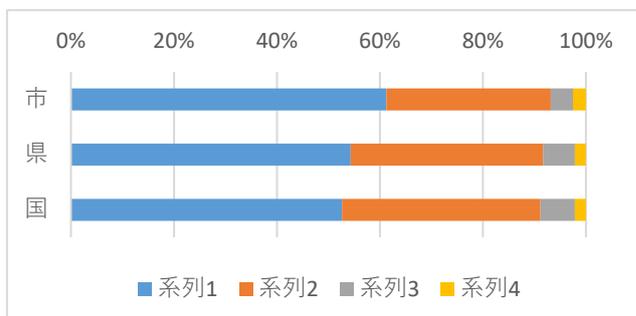
1 当てはまる 2 どちらかといえば、当てはまる 3どちらかといえば、当てはまらない 4 当てはまらない

【小学生】



区分	1	2	3	4
市	53.6	39.9	5.5	1.1
県	63.2	30.4	4.6	1.7
国	61.8	31.4	4.9	1.8
県比較	▲ 9.6	9.5	0.9	▲ 0.6
国比較	▲ 8.2	8.5	0.6	▲ 0.7

【中学生】



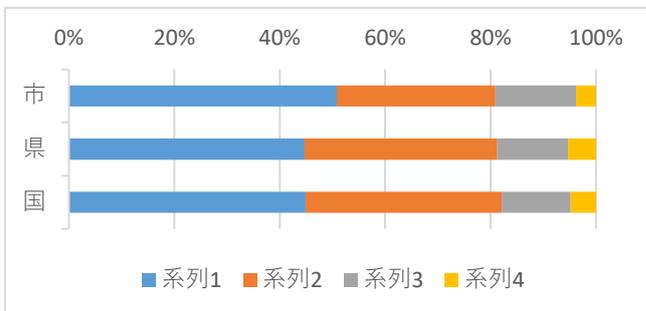
区分	1	2	3	4
市	60.9	31.7	4.3	2.5
県	54.0	37.1	6.2	2.1
国	52.3	38.3	6.7	2.1
県比較	6.9	▲ 5.4	▲ 1.9	0.4
国比較	8.6	▲ 6.6	▲ 2.4	0.4

I 肯定群（「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の計）の割合で備前市と全国を比較すると、小学生ではほぼ同等、中学生では2ポイント上回っている。

Ｊ 算数・数学の授業の内容はよく分かりますか。

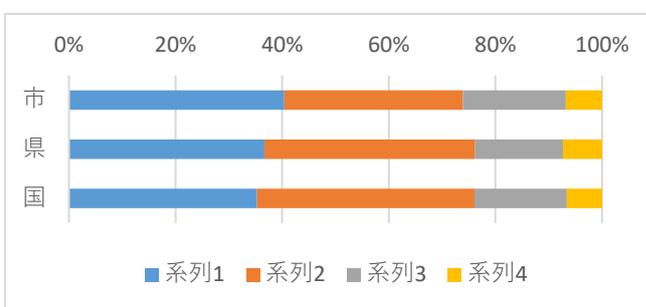
1 当てはまる 2 どちらかといえば、当てはまる 3どちらかといえば、当てはまらない 4 当てはまらない

【小学生】



区分	1	2	3	4
市	50.8	30.1	15.3	3.8
県	44.7	36.6	13.4	5.3
国	44.9	37.2	13.1	4.8
県比較	6.1	▲ 6.5	1.9	▲ 1.5
国比較	5.9	▲ 7.1	2.2	▲ 1.0

【中学生】



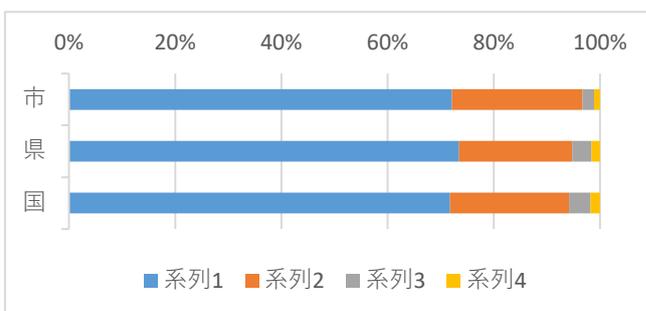
区分	1	2	3	4
市	40.4	33.5	19.3	6.8
県	36.5	39.3	16.4	7.3
国	35.1	40.6	17.2	6.6
県比較	3.9	▲ 5.8	2.9	▲ 0.5
国比較	5.3	▲ 7.1	2.1	0.2

Ｊ 肯定群（「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の計）の割合で備前市と全国を比較すると、小学生、中学生ともに全国よりやや下回っている。ただ、「当てはまる」の割合は、小学生、中学生ともに全国を大きく上回っている。

Ｋ 算数・数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。

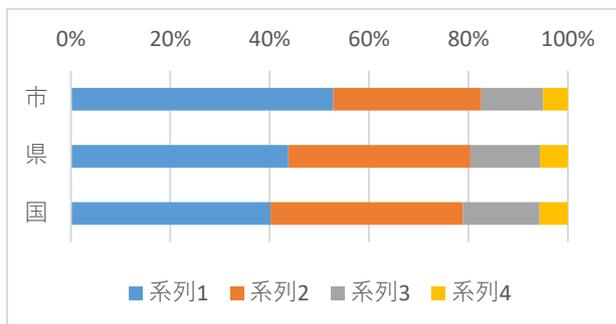
1 当てはまる 2 どちらかといえば、当てはまる 3どちらかといえば、当てはまらない 4 当てはまらない

【小学生】



区分	1	2	3	4
市	72.1	24.6	2.2	1.1
県	73.4	21.3	3.6	1.6
国	71.7	22.4	4.0	1.8
県比較	▲ 1.3	3.3	▲ 1.4	▲ 0.5
国比較	0.4	2.2	▲ 1.8	▲ 0.7

【中学生】



区分	1	2	3	4
市	52.8	29.8	12.4	5.0
県	43.5	36.4	13.9	5.6
国	40.0	38.5	15.3	5.7
県比較	9.3	▲ 6.6	▲ 1.5	▲ 0.6
国比較	12.8	▲ 8.7	▲ 2.9	▲ 0.7

K 肯定群（「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の計）の割合で備前市と全国を比較すると、小学生では2.6ポイント、中学生では4.1ポイント上回っている。